

# 衣浦港

## 愛知県建設局港湾課

〒460-8501 名古屋市中区三の丸3-1-2

☎052-954-6562

URL : <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kowan/>



## 1. 概況

衣浦港は、知多半島と西三河地区に囲まれた南北20kmの細長い形状の港で、5市3町(半田市・碧南市・刈谷市・西尾市・高浜市・東浦町・美浜町・武豊町)にまたがっている。南北のほぼ中央部には港の中核である中央ふ頭があり、東側の碧南市と西側の半田市からそれぞれ突き出たような形で配置されている。また中央ふ頭の東地区と西地区は海底トンネルで結ばれ、衣浦港の東西を結ぶ交通の要となっている。

現在、衣浦港の臨海部や背後地には、本県の電力需要の約50%を供給する国内最大の石炭火力発電所や、鉄鋼・金属、輸送機械製造などの、本県のものづくりを支える企業が集積している。それらの企業の原材料の取扱い拠点として、石炭、とうもろこし、木材チップといった「バルク貨物」の取扱量が多い港としての特徴がある。近年は再生可能エネルギーを活用した発電施設が整備され、木材チップの取扱量が増加している。

また、亀崎ふ頭地区に立地する航空機の中央翼等の製造メーカーでは、製品を本港から海上輸送で中部国際空港へ運んだ後、海外へは貨物輸送機で空輸している(Sea and Air)。本県を始めとして共同申請した「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」が国に国際戦略総合特区に指定されたことにより、これからの航空宇宙産業の発展が見込まれ、その先進的技術を有する企業が立地する本港も未来にわたり豊かで特色ある港として、更なる発展が期待されている。

本港の港勢は重要港湾指定以来進展しており、令和元年実績は外貿1,280万トン、内貿515万トン、計1,795万トンにおよんでいる。中でも輸入の取扱貨物量が多く、火力発電に用いる石炭が輸入の75%を占め、とうもろこし及び製紙原料としての木材チップなども取扱量が多くなっている。輸出については、金属くず及び鋼材などの取扱量が多くなっている。

これらの港湾貨物を取り扱う港湾施設として、中央ふ頭西地区、中央ふ頭東地区を中心に全体で56バースの公共岸壁が供用中である。そのうち、中央ふ頭西地区の西3号岸壁(-10m)、中央ふ頭東地区の東4号岸壁(-12m)、武豊北ふ頭地区の武豊北ふ頭1号岸壁(-10m)は、耐震強化岸壁として整備され、大規模災害時の緊急物資輸送拠点となる。また、専用岸壁は計44バースが稼働している。

衣浦港の背後地域には、歴史的・文化的・産業的な地域資源が数多く存在しており、これらの豊かな地域資源と港湾の

海辺空間を自転車等で回遊しながら、衣浦港とその周辺地域の魅力に触れることができるネットワークを「海辺の回廊」と呼び、周辺住民の方々に海や港に親しんでいただく機会の創出を図っている。

平成26年3月に改訂された衣浦港港湾計画は、上記のことを踏まえ、次のような整備方針を定めている。

【物流・産業】～知多・西三河地域の産業を支える物流拠点としての港づくり～

【交流・環境】～豊かな地域資源を活かした快適な港づくり～

【安全・安心】～災害に対して粘り強い港づくり～

また、2015年3月には今後予想される巨大地震や巨大台風などの大規模災害発生直後でも一定の港湾機能を維持しつつ、衣浦港港湾全体の物流機能の早期回復に向けて、港湾関係者が幅広く連携し、総合的かつ広域的に取り組むべき事項を定める「港湾BCP」(Business Continuity Plan:事業継続計画)を策定し、災害(地震・津波、高潮)に強い港湾に向けた対応を進めている。